

## グリーン・ツーリズムの取組状況について

### 1 グリーン・ツーリズムとは

「緑豊かな農山漁村で、その自然、文化、人々の交流を楽しむ滞在型の余暇活動」であり、都市住民等との交流を通じて地域に新たな所得がもたらされ、女性や高齢者などの活躍の場が広がることが期待されます。

また、都市の方々に農林漁業の大切さや農山漁村の魅力を理解してもらえるほか、農山漁村に住む方々にとっては地域の良さの見直しにもつながることなどの効果があります。

特に、本県においては、優れた観光資源や、豊富な「食」の素材と特色ある食文化などの優位性があるため、今後、ますます受入客の拡大が期待できることから、グリーン・ツーリズムに取り組むことにより、実践者個々の農業経営の安定や交流人口の拡大による外貨の獲得など、地域の活性化を図ることが可能となります。

#### ○具体的な取組

- ・農林水産物を介した活動（直売所、農家レストランなど）
- ・農林水産業体験の提供（田植、稲刈等の収穫作業、乳搾り、地引き網体験など）
- ・農山漁村生活体験の提供（郷土料理づくり、工芸品づくり）
- ・農林漁家民宿開設による宿泊の受入



上左 【ごぼう掘り】  
上中 【みそ作り】  
上右 【りんご葉取り作業】  
下左 【トマト収穫作業】  
下右 【さくらんぼ収穫】



## 2 農林漁業体験民宿の宿泊者数

農林漁業体験民宿に宿泊し、グリーン・ツーリズムを体験した人の数は、平成22年度が最も多く、6千人規模まで拡大。主体となっているのは、国内からの修学旅行生で、アジアを中心に外国人の宿泊者数も増えています。



注)国内一般客は、H23年度から調査開始

県構造政策課調べ

## 3 海外からの受入実績

海外からは、台湾が最も多く、次いでタイ、韓国となっています。

(単位：人)

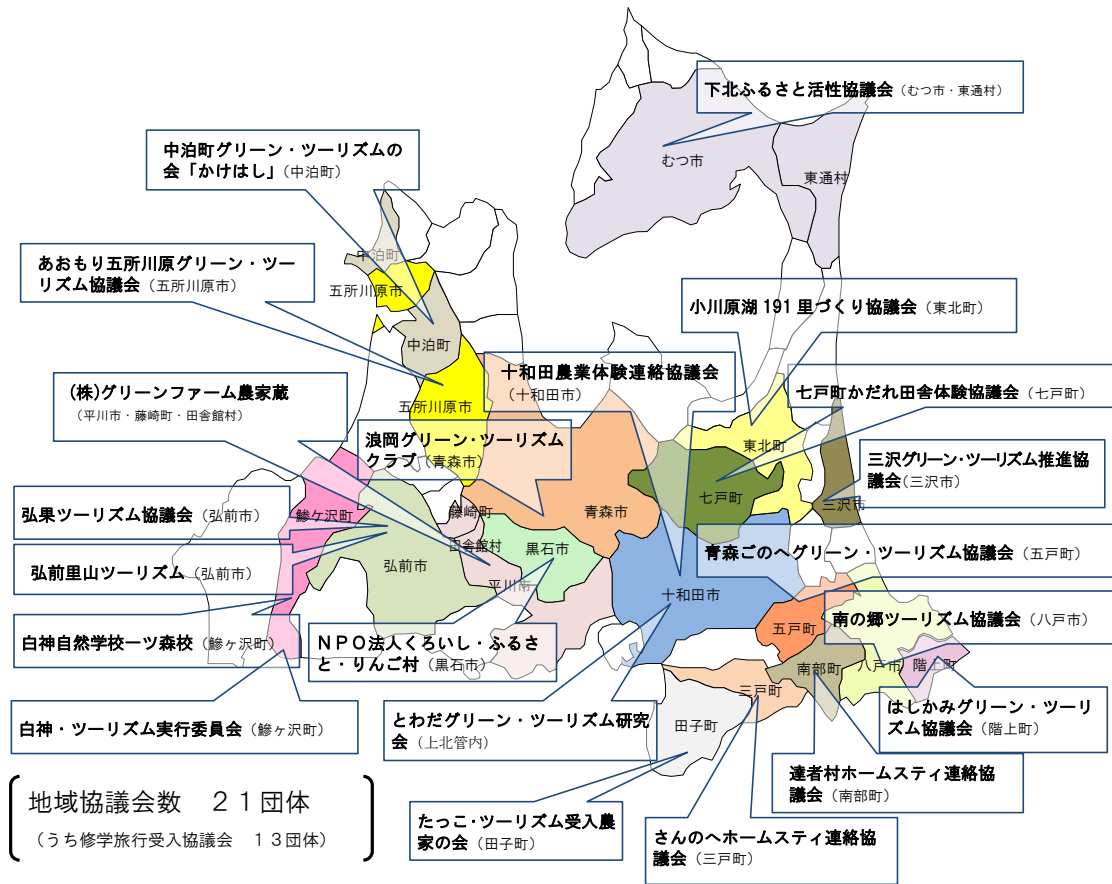
国名	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	合計
台湾	35	64	90	68	24	141	325	747
タイ			22	63	31	161	93	370
韓国						120	50	170
香港				30	2		7	39
その他						45	2	47
計	35	64	112	161	57	467	477	1,373

※その他内訳 フィリピン19、アメリカ25、ブータン1、マレーシア2

構造政策課調べ

#### 4 県内のグリーン・ツーリズム受入団体

修学旅行生等を受入れるため地域毎の組織が現在21団体あるほか、それら複数の団体が隣接地域と広域的に連携している組織が3団体、県全体での広域連携組織が1団体あります。



#### 【 県内のグリーン・ツーリズム広域連携団体 】

広域団体名	構成団体名	地 域
NPO法人広域連携津軽・ほっとステイネットワーク	(株)グリーンファーム農家蔵	平川市・藤崎町・田舎館村
	浪岡グリーン・ツーリズムクラブ	青森市
	NPO法人くろいし・ふるさと・りんご村	黒石市
三八地方農業観光振興協議会	達者村ホームステイ連絡協議会	南部町
	さんのへホームステイ連絡協議会	三戸町
	たっこ・ツーリズム受入農家の会	田子町
	南の郷ツーリズム協議会	八戸市
	はしかみグリーン・ツーリズム協議会	階上町
	青森このへグリーン・ツーリズム協議会	五戸町
	アジヤからの観光客誘致推進協議会	十和田農業体験連絡協議会
達者村ホームステイ連絡協議会	南部町	
NPO法人尾上蔵保存利活用促進会	平川市・藤崎町・田舎館村	
NPO法人くろいし・ふるさと・りんご村	黒石市	
七戸町かだれ田舎体験協議会	七戸町	
弘前里山ツーリズム	弘前市	

## 5 海外からのグリーン・ツーリズム客の拡大に向けた取組

### ① コーディネーター活動

海外のコーディネーターによる学校関係者や旅行エージェントへのプロモーション活動を実施している。

プロモーション先	期間	内容
台湾（台南市・高雄市・台中市・台北市）	平成26年 5月～8月	海外コーディネーターによる プロモーション活動 訪問数：21校、1エージェント

### ② 国際商談会（トラベルマート）

海外の旅行エージェントに対し、本県グリーン・ツーリズムをPRするとともに、訪日旅行の動向等の情報を得る。

ア 実施時期 平成26年9月24日（水）～26日（金）

イ 実施場所 東京ビッグサイト

ウ 取組内容 海外旅行エージェントへのPR、商談

### ③ グリーン・ツーリズム「語学サポーター」の養成

海外からの来訪客を受入する際、通訳のみならず、本県の食、自然、文化などを伝えることにより、受入農家との円滑な交流を促す「語学サポーター」について、青森中央学院大学、弘前大学の留学生等を対象に2回の研修を実施した。

○第1回の研修内容（9月4日（木）～5日（金）：七戸町かだれ田舎体験協議会）

・9月4日（木）

オリエンテーション

講義 青森県のグリーン・ツーリズムについて（弘前大学 谷口建）

講義 語学サポーターの心構え（青森中央学院大学 中川一徹）

事例発表 語学サポーターに期待するもの 七戸町かだれ田舎体験協議会  
立崎由紀夫

入村式

農家民宿体験

男性3名（国籍：タイ、韓国、日本）

女性5名（国籍：中国、ベトナム、ニュージーランド、日本）

・9月5日（金）

農家民泊体験（農作業体験、調理体験等）

離村式

オリエンテーション



研修生一同

○第2回の研修内容（10月18日（土）：青森市）

ア 農家民宿体験レポートの発表

イ 海外からのグリーン・ツーリズム客受入拡大に向けたワークショップ

研修で出された主な意見

- ・農家がとても親切。おもてなしのレベルが高い
- ・日本の農業・農村のことを深く学ぶことができる
- ・日本に来る修学旅行生は都会育ちが多いので、日本の田舎が新鮮に映る
- ・もっと農業体験の時間があってもいい
- ・自分たちが収穫した作物を夕飯に食べることができることは意義深い
- ・生活習慣では、公衆浴場、一つの部屋で複数人が寝ること、仏間で寝ることには抵抗を持つ人もいるので事前の説明が必要
- ・青森だけではないが英語の表記やアナウンスが少ない
- ・日本人のグリーン・ツーリズムメニューをそのまま適用するのではなく、海外の人が望むものを把握し反映させるべき（もっと農作業時間を増やすなど）
- ・農家に簡単な会話手帳（英語・韓国語・中国語）などを置く



ワークショップ



研修生一同

青森中央学院大学とグリーン・ツーリズム

青森中央学院大学  
国際交流課長  
三浦 浩

【アジアからの観光客誘致推進協議会としての活動】

《きっかけ》

**青森サポーター事業(2004年～)**  
青森中央学院大学・あおもりくらしの総合研究所

留学生に青森県の農林水産業及び文化、県産品などの現地体験研修を行い、理解を深めてもらい、帰国後も大学と連携をとりながら母国で「青森サポーター」として青森県を応援してくれる人材を養成する。

**上北地方アグリビジネス活性化フォーラム**

- ・ 2007年2月、十和田市で開催
- ・ 青森中央学院大学の台湾の留学生が、台湾からの教育旅行生の誘致を提案  
(台湾教育部データ：2005年度、台湾から3,692名の教育旅行生が日本を訪問)

**アジアからの観光客誘致推進協議会設立(2007年10月)**

[構成団体]

十和田農業体験連絡協議会(十和田市)  
青森中央学院大学  
あおもりくらしの総合研究所(事務局)

[オブザーバー]

青森県農林水産部構造政策課  
農協観光青森支店

達者村ホームステイ連絡協議会(南部町)  
(株)グリーンファーム農家蔵(平川市)  
NPO法人くろいし・ふるさと・りんご村(黒石市)  
七戸町かだれ田舎体験協議会(七戸町)  
弘前里山ツーリズム(弘前市)

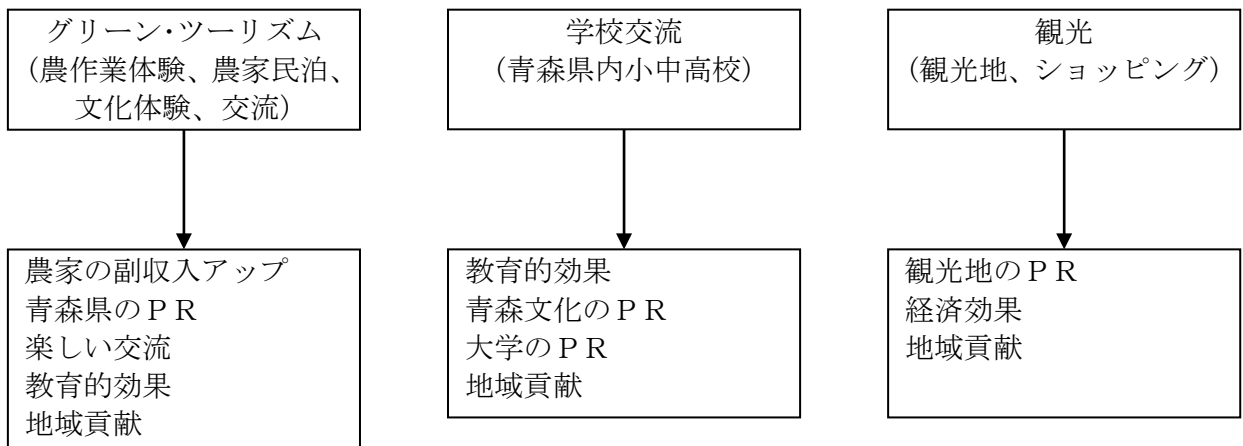
+

**産・学・官の連携によるアジアからの観光客誘致  
(2011年度農林水産省の食料・農業・農村白書掲載)**

《青森中央学院大学の活動内容》

- ① 大学の海外ネットワークを活かした誘致活動
  - ・ 台湾から誘致をスタートし、現在台湾とタイを中心に誘致
  - ・ 2014年度、マレーシアを新規開拓。2015年度、ベトナムを新規開拓。
  - ・ プログラムの作成と提案、見積り・行程表作成(農協観光)
  
- ② 語学サポーターの養成(2009年度～)
  - ・ 在籍している留学生(台湾、タイ、マレーシア、ベトナム、中国、韓国)に対する日本語学習支援
    - 経営法学部のカリキュラムの中で能力別に7クラスを開講。日本語能力の早期に向上させる。
  - ・ 青森サポーター事業と連動して、留学生が青森県の農林水産業の体験研修の実施
    - 留学生に青森を深く理解してもらう。語学サポーターとして橋渡し役をする時に効果。
  - ・ 留学生の農家民泊体験研修の実施
    - 実際に留学生を農家に宿泊させて、農作業体験、農家との交流を行う。農家との濃いコミュニケーションが日本語の上達に役立ち、かつ語学サポーターとしての経験にも繋がる。
  - ・ 青森県内の小中高校との学校交流の実施
    - 留学生と児童、生徒との交流会を通して、語学サポーターとしての役割や振る舞いなどを学ぶ。
  - ・ 語学サポーター登録
  
- ③ 語学サポーターの派遣
  - ・ 海外の教育旅行生、観光客が農家民泊する時あるいは海外の教育旅行生が日本の学校と交流会をする時に、語学サポーターとして登録している留学生の中から選抜し、農家や生徒との橋渡し役として派遣

《基本プログラム》



《受入実績》

年度	国	受入団体数	受入人数
2007	台湾	1	40
2008	台湾	3	56
2009	台湾	4	106
	タイ	1	
2010	台湾	6	179
	タイ	5	
	香港	1	
	日本*1	1	
2011 *2	台湾	1	3
	タイ	1	
	香港	1	
2012	台湾	8	275
	タイ	6	
2013	台湾	9	475
	タイ	4	
	香港	2	
	マレーシア*3	1	
	留学生*4	1	
2014 *5	台湾	6	369
	タイ	4	
	留学生*6	1	
合計		66	1,463

- \* 1 : 日本国内の外国語学校の日本人教員
- \* 2 : 東日本大震災の影響による減少
- \* 3 : 青森中央学院大学の留学生(新規開拓に向けた研修)
- \* 4 : 青森県内の大学等に在籍している留学生(国多数)
- \* 5 : 2015年1月までの確定数
- \* 6 : 青森中央学院大学の留学生(国多数)

《グリーン・ツーリズムを発展させていくために》

- ・ 「青森サポーター」に認定し、母国に戻った卒業生(元留学生)との連携
- ・ 大学の学業と語学サポーターとしての研修・活動との両立
- ・ 語学サポーター自身による積極的な提案や活動



これまでの海外からの受け入れについて

## &lt;受け入れを始めた頃の心配と現在の状況&gt;

① 言葉が通じないことへの不安（意思疎通が困難・病気や災害など緊急時の対応への不安）

**現状** 米軍三沢基地家族との交流・英会話教室を通じて、伝えたいことを簡単な英語で伝えられるようになった。

**現状** 相手国の言葉で簡単なあいさつ等は言えるように心掛けている。

② 文化・習慣の違いへの不安

**現状** 海外からの受け入れを行うたびに、相手国の文化や習慣を学ぶことができ、とても良い経験になっている。

**現状** アジアからの観光客誘致推進協議会の受入農家海外リーダー研修に参加し、これまで台湾、マレーシア等を訪問して、その国の文化・習慣を学習できたことが受け入れ時の知識として役立っている。

**現状** 農家民泊を通じて、日本の文化や習慣について伝えるように心掛けている。

③ 食事の提供（宗教上の理由等による食事制限への対応）

**現状** 事前に、お客様の食事制限・アレルギー等を連絡いただいているが、体験当日に通訳等を通じて本人に再確認している。

**現状** 受入農家同士で、提供メニューの考案・情報交換を行っている。

## &lt;受け入れのスケジュール例&gt;

**1 日目**

15 時 00 分 対面式  
16 時 00 分 農作業体験  
18 時 00 分 夕食・団らん  
20 時 00 分 入浴  
22 時 00 分 就寝

**2 日目**

6 時 30 分 起床  
7 時 30 分 朝食  
9 時 00 分 出荷・農作業体験  
12 時 00 分 昼食  
12 時 30 分 休憩  
14 時 00 分 ドライフラワー体験  
17 時 00 分 夕食・団らん  
19 時 00 分 入浴  
22 時 00 分 就寝

**3 日目**

6 時 30 分 起床  
7 時 30 分 朝食  
9 時 00 分 出荷・農作業体験  
10 時 00 分 歡送式

## &lt;海外からのお客様にいつも伝えていること・伝えたいと思っていること&gt;

① 日本の文化・習慣について② 体験を通じて「たとえ言葉は通じなくとも、お互いの心は通じる」ということ

受け入れ団体・個人

<2012年>

- ・タイ王国モンフォート高等学校
- ・ブータン王国農林省職員 ゲイロンさん
- ・タイ王国チャンドラカセム大学

<2013年>

- ・大韓民国 農業関係者視察団

<2014年>

- ・大韓民国 韓国農村地域活性化視察団
- ・台湾 陽明国民中学校
- ・タイ王国 ダーラアカデミー
- ・インドネシア、カンボジア学生

～言語や習慣が違えども、心は通じる！！～